

研究の概要

20 23 年 4 月 27 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	第一、第二正常卵割が妊娠・生産に与える影響について
代表研究者 (所属・氏名)：	医局 中岡義晴
研究の目的：	タイムラプス観察により第一、第二卵割で異常卵割した胚の胚盤胞到達率は正常卵割した胚に比べて低い報告がある一方で、異常卵割胚でも胚盤胞に到達すれば、妊娠率に影響しないことも報告されている。異常卵割は3細胞以上に分割しているため、染色体の不分離による生産率の低下が懸念される。そこで、正常卵割胚と異常卵割胚で妊娠率、生産率への影響を比較検討した。
調査データ該当期間：	20 20 年 1 月 1 日 ~ 20 21 年 12 月 31 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	第一、第二卵割ともに正常卵割した胚(正常卵割群)と異常卵割をした胚(異常卵割群)の2群に分け両群での妊娠率、生産率を比較後、ガードナー分類におけるTE評価別に妊娠率、生産率を比較検討した。妊娠結果、生産結果を従属変数とし、年齢、胚齢、正常卵割の有無、収縮の有無、ICMの評価、TEの評価、胚盤胞腔の拡張具合を独立変数としたロジスティック回帰分析を行い検討した。
個人情報の取り扱い：	個人が特定できないように連結可能匿名化を行い、個人情報を保護しています。
本研究の資金源 (利益相反)：	なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	06-6534-8824 生殖技術部門 阪本なつき
備考	